

令和 3 年 8 月 2 5 日

令和 3 年千葉市教育委員会会議第 8 回定例会

[参考資料]

議案第 4 2 号関係…………… 1

I 教育委員会の事務点検・評価制度の概要(報告書 P1~2)

- 対象年度 令和2年度
- 法令上の根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
- 評価方法 教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し識見経験を有する者の知見の活用を図っている。  
※評価委員 学校教育分野：小橋 暁子(こばし さとこ)氏  
千葉大学教育学部准教授 専門：造形教育学  
生涯学習分野：岩崎 久美子(いわさき くみこ)氏  
放送大学教授(前国立教育政策研究所総括研究官) 専門：生涯学習政策
- 重点的に評価する事業等〔令和2年度の新規・拡充事業〕※( )は評価委員が視察・ヒアリング  
学校教育分野・専科指導のための非常勤講師の配置(千葉市立桜見川小学校)  
・スクールカウンセラー活用(千葉市立桜木小学校)  
生涯学習分野・千葉市生涯学習センターの管理運営(千葉市生涯学習センター)  
・千葉市立郷土博物館の管理運営(千葉市立郷土博物館)

II 教育委員会の活動状況(報告書 P3~4)

- 教育委員会会議を14回開催し、99件の議決を行った。
- 各種イベントや研修会、会議等に出席したほか、ホームページや教育だよりを活用した広報活動や教員を目指す大学生との意見交換などを実施した。

III 点検・評価の結果(報告書 P5~P106)

- 教育委員会による自己評価  
学校教育分野は「第2次千葉市学校教育推進計画」に、生涯学習分野は「第5次千葉市生涯学習推進計画」にそれぞれ基づき、各施策を実施しているため、両計画の進捗状況を確認することにより、点検・評価を行った。また、令和2年度の新規・拡充事業のうち4つの事業について、重点的に評価を行った。

(1) 全体の評価について

	成果指標				アクションプラン					
	◎	○	×	-	達成	順調	遅れ	休止		
学校教育分野	54	2	10	40	108	24	67	12	5	
生涯学習分野	110	3	0	5	2	66	18	25	21	2

区分	◎	最終目標値(R3目標値)以上のもの		達成		最終目標(R3目標)以上のもの	
		R2未実績値とH27未現状値の差が「最終目標値(R3目標値)とH27未現状値の差」に対し80%以上であるもの	R2未実績値とH27未現状値の差が「最終目標値(R3目標値)とH27未現状値の差」に対し80%未満であるもの	達成	順調	遅れ	休止
◎							
○							
×							
-							

新型コロナウイルス感染拡大の影響があるものの、昨年度と同様、アクションプランの進捗状況は達成・順調の項目が多い一方で、成果指標の達成状況は◎・○の項目は少なく、実施している取組が成果として表れていない傾向が見られる。成果指標の妥当性、成果指標とアクションプランとの整合性、今後も続くことが予想されるコロナ禍での取組等を含め、より効果の高い事業を実施する必要がある。

(2) 重点的に評価する事業等について

- ア 専科指導のための非常勤講師の配置 (報告書 P46・47)  
専門性の高い指導を実施するとともに、担任教員が児童と向き合う時間を確保するため、小学校に専科指導のための非常勤講師を増員し、75名配置した。これまでは音楽の講師を配置していたが、令和2年度からは新たに図工・家庭・体育の講師を配置した。
- イ スクールカウンセラー活用 (報告書 P54・55)  
小学校大規模校等43校について、スクールカウンセラーの配置時間を週3時間から4時間に拡充し、児童の心のケアをすることで、不登校やいじめなどの未然防止や早期発見、早期解決を図った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校再開後において、様々な不安やストレスを抱える児童生徒に丁寧に寄り添うために、スクールカウンセラーの配置拡充を行い、きめ細かに対応する体制を整えた。
- ウ 千葉市生涯学習センターの管理運営 (報告書 P82・83)  
実施講座数は前年度に比べて約半減したものの、防災、医療・健康、国際理解、高齢者関係、家庭教育など様々なテーマで講座を開催したほか、コロナ禍でも市民への学習機会を継続して提供するため、新たにオンライン形式での講座を一部実施した。
- エ 千葉市立郷土博物館の管理運営 (報告書 P77・78)  
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、教育普及事業の一部は中止したが、一部講座等については動画や冊子で公開するなど工夫し実施した。また、特別展「軍都千葉と千葉空襲」など展示事業は予定どおり実施した。また、市史編さん事業では、明治期の史料をまとめた『千葉市史史料編10近代1』を刊行した。

2 評価委員による評価

小橋委員の意見(報告書 P97~100)

全体について(総括的所見)

- 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため学校休校や夏季休暇の短縮等もあったが、学校は子どもたちの育ちに多様な役割を担っていることを改めて認識されたともいえる。
- 児童生徒を取り巻く課題は多様化している。専門的な知見からの対応や質の向上のためにも、教職員への支援が一層求められるだろう。

専科指導のための非常勤講師の配置について

- 専門性が生かされる図工等の専科非常勤講師を配置することにより、きめ細やかな指導が行われ、児童が意欲的に活動していること、また校内での各教員の授業担当コマ数が軽減されていることを確認した。
- 今後の配置継続や実際の運用面の充実として、専科教員と他教職員との児童生徒の理解や個別の指導方法を共有する時間の確保が重要になるだろう。それは質の向上と児童の実態をふまえた指導にもつながる。

スクールカウンセラー活用について

- スクールカウンセラーは児童生徒と教員間の関係をつなげたり、継続してかかわることで教員、児童生徒、保護者らの不安感を除いたり、児童生徒自身の相談するスキル向上にもつながることも見え、学校運営にとってなくてはならない役割を担っている。またスクールカウンセラーが入ることで問題の早期発見や掘り起こしにつながることもあり、予防の観点からも重視すべきことであるといえる。
- 課題としては、スクールカウンセラーの勤務時間の制限もあり、教職員間での打ち合わせの難しさが挙げられる。校内での情報共有の方法など好事例を市内学校間で共有できるようにしていくことも全体の質を高める一助になるのではないだろうか。

岩崎委員の意見(報告書 P101~103)

全体について(総括的所見)

- 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により従来の業務が制限されたことで、各施設においては管理・運営に種々苦慮されたことが想像される。
- 施設の閉館や入場者制限が要請される中、事業数や入館者数などの従来の指標による評価は意味をなさないことから、この機としては、予想しなかった事態への対応や実践を積極的に評価し、また、その実践を検証、記録し後世に伝えることがより肝要と思われる。

千葉市生涯学習センターの管理運営について

- 講座実施という目的のために生涯学習センターと公民館とが実質的に連携し経験知を蓄積することで相互の信頼性がより強化されたと想像する。予想できない状況下で臨機応変に対応し、講座提供ができたことは、職員専門的知識や見識によるものであり、高く評価されるべきものである。
- 男女共同参画センター、自立・就労サポートセンター、博物館や美術館などとの多様な連携が見られ、事業企画の広がりを感じるところではあるが、今後も、社会の変化にアンテナを張り、市民の学習ニーズを丁寧にすくい上げ、事業企画に反映していくことが望まれる。
- 生涯学習センターや公民館といった成人の学習の場を運営する職員は、自らが市民のモデルとして学習を体現する者であることが望まれる。専門職性を高めるために自ら研鑽を積み自己啓発に努めるとともに、組織においても積極的に職員の研修、教育を推奨することが期待される。

千葉市立郷土博物館の管理運営について

- 千葉市民としてのアイデンティティは、市民に千葉市とは何なのかを絶えず語りかけるストーリーによって形成される。千葉開府900年に向けて、多様な媒体を通じて、千葉市の持つストーリーを市民に伝え、啓発することが、「都市アイデンティティ」の共有には大切である。
- 学校教育との連携は積極的に進められている。学校教育を通じ、郷土博物館が子供の頃から馴染みのある施設として、子どもたちに意識されることが必要である。立地などにも恵まれ、気楽に立ち寄れる施設であることの利点を最大限に利用し、子どもが自ら訪れ関心を抱くような企画・展示に一層工夫をされることを期待したい。

評価委員の意見に対する対応(報告書 P104~106)

これまでの事務点検・評価において評価委員よりいただいた意見に対する対応状況は右表のとおりです。  
1項目について検討中であるものの、すべての意見に対し、適切に対応しています。

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの。	5
意見に対する取組みについて検討しているもの。	1
未対応のもの。	0



教育委員会事務点検・評価(抜粋版)

議案第42号関係  
参考資料

1 学校教育分野

(1) 成果指標

※達成状況が「◎」「×」となっているものだけを抜粋

【施策2-1】

報告書(案)P16-17

No.	指標	項目	当初	目標	実績					達成状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
7	読書習慣のある児童生徒の割合	小3	49.5% (26年度末)	55.0%	53.0%	50.4%	49.4%	48.7%	50.4%	×
		小5	45.1% (26年度末)	52.5%	45.9%	48.1%	44.0%	44.1%	46.0%	×
		中2	46.7% (26年度末)	52.5%	44.4%	44.5%	43.0%	—	44.2%	×
		千葉市学力状況調査								
			達成状況に対する説明			今後の取組み等				
			<p>・読書習慣のある児童生徒の割合(1週間に1時間以上読書をしている児童生徒の割合)は、小・中学校共に上昇しています。</p> <p>・一方で、2週間に読んだ平均読書冊数は減少しています。読書時間は確保できているものの、読書冊数に関しては減少しているという結果の理由の一つに、各学校の新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、読書の際に自由に本を手に取り次々に読むという自由読書の方法から、手に取る本の冊数を制限している現状が伺えます。</p> <p>・引き続き学校図書館指導員の読書指導やボランティアによる読み聞かせ等を行い、学校図書館の充実等を積極的に推進していきます。</p>			<p>・学校図書館主任を対象とした読書活動の推進についての研修を行います。研修を踏まえ各学校で「魅力ある学校図書館運営計画」を立て、教科との関連や公共図書館との連携、蔵書管理、施設・設備の整備など、学校図書館の充実を図ります。また、引き続き、6月下旬から12月まで読書量調査を行う予定です。</p>				

【施策3-1】

報告書(案)P26-27

No.	指標	項目	当初	目標	実績					達成状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
11	朝食を必ず食べる児童生徒の割合	小	90.8%	100.0%	89.6%	90.1%	89.7%	90.3%	89.1%	×
		中	87.6%	100.0%	87.1%	87.9%	86.5%	87.3%	85.6%	×
		千葉市教育委員会保健体育課調べ								
			達成状況に対する説明			今後の取組み等				
			<p>・平成29、30年度に実施した栄養教諭による「朝食」をテーマにしたモデル授業や研修を通して、朝食の重要性への意識は高まっていますが、目標の達成には至りませんでした。週1~3日食べない児童生徒が1.7%いるため、家庭との連携をさらに深めた取組みが必要です。</p>			<p>・学校ごとに、生活リズムと関連させた指導を学校教育全体で継続して行い、家庭との連携を密にし、朝食を毎日食べる児童生徒を育てられるように取り組んでいきます。</p>				

【施策4-1】

報告書(案)P34-35

No.	指標	項目	当初	目標	実績					達成状況	
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
16	学校セーフティウォッチャーの登録者数		26,855人 (26年度末)	30,000人	26,469人	25,800人	26,265人	25,149人	24,341人	×	
		千葉市教育委員会学事課調べ									
					達成状況に対する説明			今後の取組み等			
			<p>・登録者の増加には至っていませんが、保護者・地域協力者の協力により、各学校区で安全な登下校が行われています。</p>			<p>・保護者会や地域の団体に参加を呼び掛けるなど、セーフティウォッチャーを増やす取組みを継続していきます。</p>					

【施策6-2】

報告書(案)P52-53

No.	指標	項目	当初	目標	実績					達成状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
23	全児童生徒数に対する不登校児童生徒の割合	小	0.46% (26年度末)	0.35%	0.49% (27年度末)	0.52% (28年度末)	0.57% (29年度末)	0.70% (30年度末)	0.86% (R1年度末)	×
		中	2.38% (26年度末)	2.20%	2.49% (27年度末)	2.67% (28年度末)	3.05% (29年度末)	3.42% (30年度末)	3.59% (R1年度末)	×
		千葉市教育委員会教育支援課調べ								
			達成状況に対する説明					今後の取組み等		
			<p>・不登校を解消した児童生徒もいますが、不登校状態が前年度から継続している児童生徒が多かったため、割合は増加しています。学校以外の相談機関等を利用していない児童生徒も増えており、個に応じた支援が十分でないことが増加の理由と考えます。</p>					<p>・不登校児童生徒の個々の状況に応じた具体的な指導と支援について、他機関との連携を含め家庭、学校で情報共有し、個々の状況に応じた支援体制づくりを促進します。 ・長欠対策教育相談員の学校訪問により、各学校の状況を把握し、校内支援体制や支援方法についての指導助言の充実に努めます。</p>		
24	いじめ解消率	小	82.2% (26年度末)	90.0%	87.9% (27年度末)	89.2% (28年度末)	68.9% (29年度末)	62.3% (30年度末)	74.5% (R1年度末)	×
		中	80.3% (26年度末)	87.0%	89.6% (27年度末)	91.7% (28年度末)	81.8% (29年度末)	66.7% (30年度末)	61.3% (R1年度末)	×
		千葉市教育委員会教育支援課調べ								
			達成状況に対する説明					今後の取組み等		
			<p>・国のいじめ防止基本方針の改定(平成29年度末)に伴い、「いじめが解消している」と判断される条件として「3カ月の見守りが必要である」等に変更されたため、解消率が低下しました。また、いじめに対する正しい理解が進んだことで、いじめ認知件数が増加する反面、安易にいじめを解消したと判断せず、丁寧な見守りをしているため解消率が低下したと考えています。</p>					<p>・いじめの積極的な認知が浸透したため、認知件数が増加していることは評価できることです。今後は、初期対応を丁寧に行うことで、さらにいじめの早期解消に努めます。 ・また、管理職のいじめ対応研修により組織対応の必要性の理解を深めることや、生徒指導調査研究委員会の報告書「いじめの積極的な認知とその対応」の積極的な周知、学校からの要請に応じた校内研修の推進に努めます。</p>		

【施策6-3】

報告書(案)P56-57

No.	指標	項目	当初	目標	実績					達成状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
26	日本語指導が必要な帰国・外国人生徒で指導を受けている割合	小	90.5% (26年度末)	92.0%	90.8%	91.4%	91.9%	100%	100%	◎
		中	93.4% (26年度末)	95.0%	93.7%	98.5%	98.5%	100%	99.5%	◎
		千葉市教育委員会教育指導課調べ								
			達成状況に対する説明					今後の取組み等		
			<p>・日本語指導が必要な帰国・外国人生徒の人数は前年度とほぼ同数ですが、ボランティア等の協力により、要請のあった児童生徒ほぼ全員に対応しました。 ・一方で、指導時間数の確保や、多様化する母語への対応が課題です。</p>					<p>・日本語指導が必要な児童生徒の増加や、母語の多様化に対しても、きめ細かな支援ができるよう、大学やNPO団体との連携を強化するほか、自動翻訳機の活用効果を検証します。また、2か所体制とした日本語指導通級教室の適正な運用を推進します。</p>		

## (2)アクションプラン

※進捗状況が「達成」「遅れ」となっているものだけを抜粋

### 【施策1-1】 報告書(案)P9-10

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			達成 状況	
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
6	情報教育 機器の整備・充実	小学校PC教室の 端末刷新	106校 20台/校 6校 40台/校	全校 40台/校 (移動型端 末)	106校 20台/校 6校 40台/校	106校 20台/校 6校 40台/校	106校 20台/校 6校 40台/校	110校 (学級人数 最大値で配 備)	110校 (学級人数 最大値で配 備)	達成	
		タブレットPCの整 備	モデル校 40台 教育センター 40台	モデル校等 での成果を 踏まえ、見 直し時に設 定	継続モデル校 40台 教育センター 40台	継続モデル校 40台 教育センター 40台	継続モデル校 40台 教育センター 40台	全小中学校 規模別に11 台から80台	第2次CABINET用 タブレット 全小中学校規模 別に11台から81 台 1人1台タブ レット 全校に配備	達成	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次CABINETシステムの整備が完了し、小中学校への本格運用が始まりました。配備した第2次CABINET用のタブレットの台数は学校規模別になっています。</li> <li>GIGAスクール構想で小・中学校、特別支援学校(小・中学部)の全児童生徒・教員に、1人1台タブレットPCを整備しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校へ導入されたICT機器の利活用を促進するため、教職員研修の内容を充実させたり、回数を増やしたりしていきます。また、優良教材や活用事例などの情報を教育センターホームページなどを活用して積極的に発信していきます。</li> <li>ICT支援員を全校に巡回配置することで、児童生徒のICT機器の操作支援や教員のサポートなどを実施していきます。</li> </ul>						

### 【施策1-2】 報告書(案)P13-15

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
3	小学校英 語活動・英 語教育の 推進	外国語指導助手 の配置拡充	-	50人	-	-	38人	38人	38人	遅れ
		英語教育支援員 の配置	-	12人	-	-	12人	12人	12人	達成
		英語免許保有者 の増員	-	175人	-	-	102人	101人	101人	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語指導助手の人数の増減はありませんでしたが、各学年の授業は概ね予定通り実施できました。一方、打合せ時間の確保が課題となっているため、今後は人数の増員から勤務時間の拡充へとシフトチェンジしていきます。</li> <li>英語教育支援員については、最終目標と同数を配置し、各担当校での指導・助言に当たりました。</li> <li>英語免許保有者に関しては、10人が新たに免許を取得したものの、免許保有者が11人退職したため、1人減となりました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語指導助手は、打合せ時間の確保が課題となっているため、派遣時間拡充に向けて取組みを進めていきます。</li> <li>英語教育支援員は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した活動や、高学年の評価などについて、重点的に指導・助言します。小学校教員の指導力が向上したので事業の見直しを検討します。</li> <li>千葉大学などにおいて免許法認定講習が開催された場合、免許取得者からの受講スケジュールなどに関するアドバイスを添えて、案内・募集します。</li> </ul>							
5	市立高等 学校のグ ローバル スクール 化の推進	外国語補助教員 の増員	-	3人	-	-	2人	3人	3人	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に外国語補助員を1名増員し、目標を達成しています。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語補助教員を活用し、グローバルリーダーの育成を図ります。</li> </ul>							

【施策1-2】 報告書(案)P13-15

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
7	未来の科学者育成プログラム	ジュニア講座受講者	50人	100人	66人	42人	71人	159人	25人	遅れ
		ロボット工学講座の新規開設	—	年4講座	—	—	年2講座	年3講座	年2講座	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニア講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2講座のみ実施で延べ25人の参加となりましたが、電子申請によるスムーズな申込体制の確立や、一部の講座をオンラインで実施するなど、新たな取組みを行いました。</li> <li>ロボット工学講座は、千葉大学・千葉工業大学の協力により4講座予定していましたが、2講座のみの実施で延べ49人の参加となりました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニア講座ではこれまでの小学校5、6年生対象の講座以外に小学校3、4年生対象の講座を増設します。また、電子申請システムによる受付を推進していきます。</li> <li>ロボット工学講座は、令和3年度は4講座を実施する予定です。</li> </ul>							

【施策2-1】 報告書(案)P18-20

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
2	学校図書館の充実	蔵書の充実 (学校図書館標準 未達成校の改善)	未達成校の 平均蔵書率 85.8%	未達成校の 平均蔵書率 93.0%	未達成校の 平均蔵書率 89.3%	未達成校の 平均蔵書率 92.9%	未達成校の 平均蔵書率 91.1%	未達成校の 平均蔵書率 90.3%	未達成校の 平均蔵書率 93.0%	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書標準達成100%を超える学校数は2校増え、110%を超える学校数は、令和元年度に比べ小・中学校合わせて4校増えています。</li> <li>未達成校において、蔵書率の割合は令和元年度に比べ若干低くなっています。今後も計画的な廃棄を進めながら、蔵書数の拡充を図っていきます。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度は、前年度と同額の予算を確保し、「図書保有率」等を勘案して学校図書購入費を配付します。</li> <li>6月に各学校において学校図書運営計画を立て、蔵書、施設・設備等の整備を行い、学校図書館の充実を図ります。</li> </ul>							
7	オリパラ教育の推進	パラスポーツ授業の実施	—	166校 (全小・ 中学校で 実施)	—	12校	166校 (全小・ 中学校で 実施)	166校 (全小・ 中学校で 実施)	165校 (全小・ 中学校で 実施)	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>体育・保健体育の授業において、すべての小学校でゴールボール及びシッティングバレーボールを、すべての中学校でシッティングバレーボールを実施しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は延期となりましたが、児童生徒の安全に配慮しながら、引き続き、オリパラ教育を継続します。</li> </ul>							

【施策3-1】 報告書(案)P28-29

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
4	こてはし学校給食センターの再整備	継続	継続	継続	継続	供用開始	継続稼働	継続稼働	継続稼働	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年4月に供用を開始し、令和2年度については、花見川区を中心とした中学校14校に給食を提供しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な学校給食を安定的に提供していきます。</li> </ul>							

【施策3-2】 報告書(案)P32-33

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
1	運動習慣を身に付けるための取組み	運動習慣定着に向けた取組み	各学校で独自の取組みを実施	全校実施	体育・保健体育におけるオリパラ教育検討委員会の設置について検討 各学校で独自の取組みを実施	体育・保健体育におけるオリパラ教育検討委員会の設置 モデル校(小中各7校)でモデル授業を実施	全校実施	全校実施	全校実施	達成	
			主な成果と考察			今後の取組み等					
			・前年度に引き続き、市立全小中学校の体育・保健体育の授業において、バラスポーツを実践しました。			・東京2020オリンピック・パラリンピック終了後も、市立全小中学校の体育・保健体育の授業において、バラスポーツを実施します。					
2	アスリート交流事業	小学校における障害者アスリートとの交流	実施率：6%	延べ実施率：100%	延べ実施率：22%	延べ実施率：36%	延べ実施率：72%	延べ実施率：100%	延べ実施率：100%	達成	
		千葉ロッテマリーンズベースボールチャレンジ	年間：20校	年間：26校	年間：15校	年間：15校	年間：20校	年間：26校	年間：13校	遅れ	
		ジェフユナイテッド市原・千葉おとどけ隊	年間：93校	年間：95校	年間：94校	年間：94校	年間：92校	年間：95校	年間：35校	遅れ	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
			・「障害者アスリートとの交流」については、順調に実施校を拡大し、令和元年度までに全校への訪問を達成しました。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、令和元年度より実施校数は減少したものの19校で実施しました。			・「障害者アスリートとの交流」については、引き続き実施します。					
			・「ベースボールチャレンジ」、「おとどけ隊」については、関係機関にさらに実施校を増やすよう働きかけていくとともに、それぞれとの連絡・調整をより一層密に行っていきます。								

【施策4-1】 報告書(案)P36-37

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
5	学校安全に関する教育の充実	小・中学校におけるブラインド型避難訓練の実施	63.0%	80.0%	67.7%	69.7%	71.1%	71.5%	59.3%	遅れ	
			主な成果と考察			今後の取組み等					
			・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置等のため、実施校数は減少しました。今後も安全指導主任会や研修等で積極的に周知し、実施率の向上を図ります。			・安全指導主任会や研修会等において、状況に応じた判断をする教育の必要性や、その一環としてブラインド型訓練があることを説明します。また、感染症対策を施したうえでの実施方法を周知します。さらに、実施していない学校へ個別に連絡をし、実施率向上に努めます。					



【施策4-2】 報告書(案)P39-40

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績					
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
1	学校施設の 環境整備(質的整備)	トイレ改修	—	66.6%	3.4%	14.9%	26.0%	31.7%	42.5%	遅れ
		音楽室等エアコン整備	—	小学校 100% 中学校 100% 特別支援学校100%	小学校 0% 中学校 50% 特別支援学校100%	小学校 0% 中学校 100% 特別支援学校100%	小学校 26.1% 中学校 100% 特別支援学校100%	小学校 100% 中学校 100% 特別支援学校100%	小学校 100% 中学校 100% 特別支援学校100%	達成
		普通教室へのエアコン整備	—	小学校 100% 中学校 100%	— —	— —	— —	小学校 100% 中学校 78.2%	小学校 100% 中学校 100%	達成
		主な成果と考察					今後の取組み等			
<p>・トイレ改修の進捗については遅れていますが、完了時期を前倒しできるように工事発注件数の見直しを行い、トイレのドライ化と洋便器化を推進してきました。</p> <p>・音楽室等エアコン整備は、音楽室、図書室及びコンピュータ室へ令和2年3月末に設置が完了しました。</p> <p>・普通教室へのエアコン整備は、令和2年5月末に設置が完了しました。</p> <p>・毎年約20校でトイレ改修を実施することにより、令和6年度までに全校改修済となる予定です。最終目標に対しては順調に進捗しています。</p> <p>・全ての特別教室へのエアコン設置を令和3年度中に完了する予定です。</p>										
2	学校適正 配置の推 進	適正配置実施方針の見直し	準備・検討	第3次学校適正規模・適正配置実施方針	準備・検討	準備・検討	第3次学校適正配置実施方針策定	第3次学校適正配置実施方針の運用	第3次学校適正配置実施方針の運用	達成
		主な成果と考察					今後の取組み等			
<p>・第3次学校適正規模・適正配置実施方針を基に、当該地区で統合準備会を運営するとともに、新たな地区における学校適正配置の検討を進めました。</p> <p>・児童・生徒数推計の動向を注視しながら、第3次学校適正規模・適正配置実施方針に基づき「優先度Ⅰ」となった学校や適正配置の検討が必要な新規地区の学校を訪問して、校長や保護者、地域と意見交換等を進めます。</p>										
3	学校適正 配置に伴 う施設改 修	統合に伴う施設改修	10校	13校	11校 78.57%	11校 78.57%	11校 78.57%	11校 78.57%	13校 100%	達成
		跡施設解体・整備	2校	6校	4校 80%	5校 100%	5校 100%	5校 100%	6校 100%	達成
		主な成果と考察					今後の取組み等			
<p>・令和2年度末までに施設改修が完了しました。</p> <p>・今後も引き続き、統合予定となった学校について、施設・設備の改修を行っていきます。</p>										
5	小中一貫 教育の推 進	小中一貫教育のモデル事業	研究指定 (小中連携)	小中一貫教育モデル校の設置	継続	継続	継続	小中一貫教育モデル校の設置	小中一貫教育校の設置 小中一貫教育モデル校の設置	達成
		主な成果と考察					今後の取組み等			
<p>・令和2年4月から川戸小・中学校を小中一貫教育校に位置付けるとともに、幸町第三小学校・幸町第二中学校、及び更科小学校・更科中学校を小中一貫教育モデル校に位置付けました。</p> <p>・千葉市の小中一貫教育基本方針に基づき、小中一貫教育の進展のための具体的な実践計画を立て、各校の特色に応じた実践をしました。</p> <p>・令和3年4月から幸町第三小学校・幸町第二中学校、及び更科小学校・更科中学校を小中一貫教育校に位置付けました。</p> <p>・小中一貫教育校運用状況や課題を把握するとともに改善に向けた助言を行います。</p>										

【施策5-1】 報告書(案)P43-44

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績					達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
2	特別支援 教育研修 の充実	特別支援教育研 修の実施	受講者 1,527人/年	受講者 1,820人/年	受講者 2,111人/年	受講者 2,132人/年	受講者 2,005人/年	受講者 2,165人/年	受講者 27人/年	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
			<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた33講座のうち32講座を中止としたことから、1講座のみの開催で受講者は27人となりました。</p>			<p>・これまでのアンケートの分析などにより、受講者のニーズに沿った研修テーマを設定するとともに、オンラインでの実施や参加しやすい日程調整を行うことにより、感染症予防策を取りながら受講者数の増加を図ります。</p>				

【施策5-2】 報告書(案)P46-47

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績					達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
4	学校給食 費の公会 計化と「公 金・準公金 管理シス テム」の整 備	管理システムの整 備	検討	運用	検討	検討	運用	運用	運用	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
			<p>・平成30年4月から運用を開始しました。 ・学校給食費(公金)と学校徴収金(準公金)を一括徴収・管理することで、保護者の負担軽減と利便性の向上に寄与しています。また、学校においては、事務処理方法の統一化が図られ、指導業務時間の確保につながっています。</p>			<p>・制度の適切な運用のため、システムの改修や管理職に対する研修を実施します。 ・学校給食費については、徴収対策のさらなる強化を図ります。</p>				

【施策6-1】 報告書(案)P50-51

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績					達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
2	特別支援 教育のサ ポート体制 の整備	特別支援教育指 導員	35人	40人	35人	35人	40人	40人	40人	達成
		特別支援教育介 助員	5人	15人	5人	5人	10人	10人	10人	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
			<p>・特別支援教育指導員を40人配置し、配置対象児童生徒全員の指導計画を作成しました。適切な支援を行うことにより、学習態度や対人関係の改善、社会性の向上が見られました。また、個別の教育支援計画を作成・活用することで、よりよい支援体制の継続を図っています。 ・特別支援教育介助員を10人配置し、14校16名の児童生徒に支援を行いました。進捗状況は「遅れ」となっていますが、保護者、教員からのニーズに合わせて対応しており、高い満足度を得ています。対象児童生徒の自立に向け、どこまで介助を行うべきか、担任との連携の仕方などについて整理を継続していくことが必要です。</p>			<p>・指導員配置数(40人)を超える配置希望があるため、増員を検討するとともに、すべての希望校に学校訪問相談員または指導主事を派遣します。本人及び校内支援体制を把握し、指導・助言を行っていきます。未配置校についても、訪問要請や教員に対する相談、各種研修等により、必要な指導・助言を行います。 ・対象児童生徒の障害が多岐にわたるため、状況を正確に把握し、一人一人に応じた適切な支援をしていきます。また、本事業の目標である「自立」に向け、学校・保護者・介助員・行政が連携を密にし、望ましい支援の在り方を検討しながら進めていきます。</p>				

【施策6-2】 報告書(案)P54-55

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況	
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末			
2	スクールカウンセラーの活用	小学校に配置	7校配置 12校巡回	10校配置 20校巡回	6校配置 12校巡回	10校配置 30校巡回	12校配置 60校巡回	全校配置 (111校)	全校配置 (110校)	達成		
		スーパーバイザーの配置	3人	4人	4人	4人	4人	4人	4人	達成		
			主な成果と考察			今後の取組み等						
			<p>・小学校大規模校等43校の配置時間を、週3時間から4時間に拡充しました。児童の心のケアをすることで、不登校やいじめなどの未然防止や早期発見、早期解決を図りました。</p> <p>・また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校再開後において、様々な不安やストレスを抱える児童生徒に丁寧に寄り添うために、スクールカウンセラーの配置拡充を行い、きめ細かに対応する体制を整えました。</p>			<p>・令和3年度より、小学校は35週から37週へ、特別支援学校は35週から40週へ配置時間を拡充します。今後も効果の検証を行いながら、配置時間の拡充を検討します。</p>						
4	適応指導教室の設置及び運営	適応指導教室(ライトポート)の設置運営	5ヵ所運営	6ヵ所運営 (各区設置)	LP稲毛の改修工事と備品消耗品購入を行った。	LP稲毛を開所し、順調に運営できた。	全行政区の計6ヵ所を順調に運営できた。	全行政区の計6ヵ所を順調に運営できた。	全行政区の計6ヵ所を順調に運営できた。	達成		
		主な成果と考察			今後の取組み等							
			<p>・すべての行政区に設置されたライトポート(LP)に120名を超える児童生徒が通級し、学校生活への復帰や社会的自立を目指す居場所としての機能を果たしています。</p>			<p>・コロナ禍の影響もあり、前年度より通級児童生徒数は減少していますが、依然として多くの児童生徒が通級しています。LPの管理・運営内容の改善と、それぞれのLPでの取組を共有し、支援の充実に努めます。</p>						

【施策6-3】 報告書(案)P58-59

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況	
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末			
3	外国人児童生徒指導協力員の派遣	外国人児童生徒指導協力員の派遣	11人	13人 (協力指導員の増員)	11人 (勤務日数拡充)	11人 (勤務日数拡充)	11人 (勤務日数拡充)	13人 (2人増員)	13人	達成		
		主な成果と考察			今後の取組み等							
			<p>・令和2年度は、13人の指導協力員が459人の指導等にあたりました。児童生徒への日本語指導だけでなく、面談や家庭訪問時の保護者への支援も行うなど、精神的なケアにも大きく貢献しています。</p>			<p>・令和3年度から、指導協力員を2名(中国語、スペイン語)増員し、体制を拡充しましたが、訪問回数等は足りていません。今後も指導協力員の増員等、効果的な配置に努めます。</p>						
4	日本語指導通級教室の設置	日本語指導通級教室の設置	1ヵ所運営	増設	1ヵ所運営	需要、設置場所調査	増設を決定	2ヵ所運営	2ヵ所運営	達成		
		主な成果と考察			今後の取組み等							
			<p>・令和元年度に、2ヵ所目となる千城台東教室を開設しました。2ヵ所の教室に合わせて27名の生徒が通級しました。</p>			<p>・通学区域内の日本語指導が必要な生徒の状況把握と具体的な入級手続きの案内、支援を行います。また、入級生徒・保護者・学校・通級教室の連携を支援します。</p>						
5	学習習慣定着に向けた支援	eラーニングの活用	検討	運用拡大	検証中	検証結果の考察	モデル事業実施	実施	実施	達成		
		主な成果と考察			今後の取組み等							
			<p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置対応のため、令和2年3月より先行的にドリル教材などの家庭利用を開始しました。自宅のPCなどからインターネットを介して家庭学習ができるような環境を整えました。</p>			<p>・全児童生徒に配備した1人1台タブレットPCを各家庭に持ち帰り、家庭用Wi-Fiなどにつなぐことにより、長期休業中も家庭学習に活用できるようになります。新型コロナウイルス感染症拡大等により休校になった場合は、学校から家庭に向けたオンライン指導にも利用することができます。</p>						

【施策7-1】 報告書(案)P62-63

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標		実績					達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
2	放課後子ども教室 の推進	実施日数	21.2日/校 (H26) ニーズ調査 の実施	従来型 22日/校 活動支援型 28日/校	19.8日/校	19.8日/校	従来型 17.9日/校 活動支援型 25.9日/校	従来型 16.9日/校 活動支援型 28.0日/校	従来型 4.2日/校 活動支援型 14.1日/校	遅れ	
		活動支援実施校 の拡充	—	17校	—	—	17校	17校	17校	達成	
		放課後子どもプラン の策定	—	策定	—	—	策定	策定	策定	達成	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後子ども教室は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が縮小され、実施日数が減少しました。また、安全管理やプログラム開発など、地域の負担が大きいことが実施日数を増加する上での課題となっています。</li> <li>活動支援型は対象校17校を希望制により決定することで、真に必要な支援を行いました。</li> <li>平成30年度に放課後子どもプランを策定し、放課後施策を総合的・計画的に進めています。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に放課後子どもプランの中間見直しを実施し、今後の放課後対策について示します。</li> <li>放課後子ども教室は、総合コーディネーターによる活動支援を継続するとともに、引き続き対象校は希望制により決定することで、真に支援を要する学校に必要な支援を行い、実施日数の増加を図ります。</li> </ul>								

## 2 生涯学習分野

### (1) 成果指標

※達成状況が「◎」「×」となっているものだけを抜粋

#### 【施策1-1】

報告書(案)P67-68

No.	指標	当初	目標	実績					達成状況	
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
1	生涯学習に関心のある市民の割合	76.9% (H26)	90.0%	80.5%	75.9%	76.3%	73.6%	79.2%	×	
		WEBアンケート								
		達成状況に対する説明				今後の取組み等				
		・SNSや情報誌等各種媒体による学ぶ場と学ぶための情報提供や、生涯学習イベントを継続して実施し、前年度と比較し、5.6ポイント上昇しました。				・市民ニーズに応えた各種事業を実施するとともに、SNSを活用した情報の発信や、情報誌やチラシなどの発行回数を増加することで、学習のきっかけづくりにつなげ、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めます。				
2	生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合	56.4% (H26)	34.0%	19.3%	22.0%	24.5%	27.8%	50.4%	◎	
		WEBアンケート								
		達成状況に対する説明				今後の取組み等				
		・SNSでの発信や冊子・チラシなどの発行に加えホームページのリニューアルなど、生涯学習に関する情報提供の充実にも努めたことにより、前年度と比較し、22.6ポイント上昇しました。				・SNSを活用した情報発信の拡充、情報誌やチラシなどの発行回数の増加、公民館の掲示板の活用など、各年齢層の利用者に届くよう、様々な手法を活用した情報発信を充実します。				

#### 【施策1-2】

報告書(案)P71

No.	指標	当初	目標	実績					達成状況	
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
4	生涯学習施設を年1回以上利用したことのある市民の割合	44.1%	80.0%	—	73.1%	68.0%	73.5%	55.6%	×	
		WEBアンケート								
		達成状況に対する説明				今後の取組み等				
		・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた施設運営を行いました。利用自粛により、前年度と比較し、17.9ポイント下降しました。				・学習環境の整備を進め、市民ニーズに応じた各種事業を実施し、学習のきっかけづくりに努めつつ、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて生涯学習施設を運営します。				

#### 【施策2-1】

報告書P76

No.	指標	当初	目標	実績					達成状況	
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
5	郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合	38.3% (H26)	59.0%	—	55.7%	61.3%	57.0%	59.0%	◎	
		WEBアンケート								
		達成状況に対する説明				今後の取組み等				
		・特別史跡加賀利貝塚や千葉市の礎を築いた千葉氏などを筆頭に、PR事業を継続的に実施しました。 ・前年度と比較し、2ポイント上昇し、郷土の歴史や文化財に対する市民の興味・関心は高まってきていると考えられます。				・より多くの方に満足いただける学習機会を提供できるよう、引き続き、郷土への理解を深める講座・事業の充実など関連するアクションプランの充実を図ります。				

【施策2-2】

報告書(案)P80-81

No.	指標	当初	目標	実績					
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
6	公民館の講座の参加者の満足度	98.2%	99.5%	98.5%	98.7%	98.4%	98.4%	97.9%	×
		受講者アンケート							
		達成状況に対する説明				今後の取組み等			
<p>・地域における課題や利用者のニーズを把握し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮しながら講座内容や実施方法を見直しつつ主催事業を実施しましたが、前年度と比較し、0.5ポイント下降しました。</p> <p>・また、感染症拡大による休館や一部講座の中止、講座の定員縮小などの影響により、アンケートの回答数は、前年度の約4割となりました。</p>				<p>・地域課題、利用者のニーズ、不満だった理由を的確に把握したうえで、実施時期等の検討をするとともに、講座内容や実施回数を充実し、満足度の向上を図ります。</p>					
7	「科学都市ちば」の認知度	38.6%	50.0%	55.6%	56.7%	47.5%	47.0%	41.3%	×
		WEBアンケート							
		達成状況に対する説明				今後の取組み等			
<p>・新型コロナウイルス感染症拡大により、講座やイベントを中止したことから、例年より啓発機会が限定されたため、前年度と比較し5.7ポイント下降しました。</p> <p>・ここ数年では下降傾向であるため、さらなる広報の強化に努める必要があると考えます。</p>				<p>・千葉市科学フェスタメインイベントや科学館事業の充実はもちろんのこと、未来の科学者育成プログラム等、児童生徒向けの事業の充実を図り、「科学都市ちば」の認知度の向上を図ります。</p>					

【施策3-1】

報告書(案)P87

No.	指標	当初	目標	実績					
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
8	市民のボランティア活動・地域活動への参加状況	16.4% (H26)	30.0%	21.9%	13.5%	16.7%	16.1%	22.0%	×
		WEBアンケート							
		達成状況に対する説明				今後の取組み等			
<p>・新型コロナウイルス感染症拡大により、生涯学習センターや公民館で各種講座の実施数が減少しましたが、「地元メディアに取材してもらう方法」講座など団体活動の活性化を目的とした講座を実施し、前年度と比較し、5.9ポイント上昇しました。</p>				<p>・市民ニーズを踏まえボランティアやリーダー育成講座の充実を図るとともに、ボランティア等の活動についての幅広い周知や、活動場所の発掘など、学習成果を地域に還元するしくみづくりに取り組みます。</p>					

【施策3-3】

報告書(案)P94

No.	指標	当初	目標	実績					
		H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
10	住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合	24.3% (H26)	30.0%	—	28.9%	31.8%	31.2%	40.5%	◎
		WEBアンケート							
		達成状況に対する説明				今後の取組み等			
<p>・公民館運営審議会や運営懇談会などで議論された地域課題を講座に反映させるなどしたことから、前年度と比較し、9.3ポイント上昇しました。</p>				<p>・公民館運営審議会や運営懇談会の議論の活性化をはじめ、地域の団体等と連携して主催事業を実施するなど、地域課題の解決に取り組んでいけるよう支援を続けます。</p>					

## (2)アクションプラン

※進捗状況が「達成」「遅れ」となっているものだけを抜粋

### 【施策1-2】 報告書(案)P72-75

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績					達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
1	生涯学習施設等の 利用環境 の充実	生涯学習センター の施設稼働率	51.5% (H26)	55.0%	58.2%	62.8%	64.7%	60.3%	42.7%	遅れ
		公民館の施設稼働率(*調理室を除く)	45.2% (H26)	51.0%	46.8%	46.8%	45.8%	46.3%	38.5%	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センター、公民館ともに、稼働率は新型コロナウイルス感染拡大による利用自粛によって、大幅に下降しました。アルコール消毒、換気、諸室の定員制限など、感染拡大防止策を講じた施設運営を実施しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センターでは、利用者の意見を参考に利用環境を整備するほか、夜間区分の利用促進策として、令和3年度中に1週間前以降に利用する方に対して、夜間料金を値引きするなどの対策を講じていきます。</li> <li>公民館では、利用しやすい施設とは何かという事を念頭に置きながら、今後も計画的に施設の修繕を行い、感染症対策に努めることで、どのような利用者の方でも安心して気軽に利用できる環境づくりを図ります。</li> </ul>							
2	図書館サービスの 向上	地区図書館の開館時間の拡大	—	1館	0館	0館	0館	0館	0館	遅れ
		分館における休日開館の実施	—	3館	0館	0館	0館	0館	0館	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館が地域の「知の拠点」として豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるように、実現したい図書館の未来像を描き、逆算する形で取り組むべき施策を示す指針として、新たな図書館計画「千葉市図書館ビジョン2040」を策定しました。</li> <li>平成29年3月に開館した「みずほハスの花図書館」において、休館日である月曜日の開館を実現しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな図書館計画「図書館ビジョン2040(令和2年3月策定)」に基づき、各年度策定する事業計画において具体化する施設整備に併せ、開館時間の延長や祝日開館の実現に向け取組みを進めます。</li> </ul>							
4	公民館の 改築	檜橋公民館の改築	基本設計	供用	建設中 (H29年10月供用開始予定)	H29年10月 供用開始	H29年10月 供用開始 (H29の実績再掲)	H29年10月 供用開始 (H29の実績再掲)	H29年10月 供用開始 (H29の実績再掲)	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者・関係者からの要望を受け、当初の予定を6か月前倒しし、平成29年10月に供用開始しました。</li> </ul>										
5	公民館の 改修	冷暖房設備改修	3館 (H26)	4館 (R3末までの累計)	計1館 (H28:1館実施)	計2館 (H29:1館実施)	計2館 (H30:0館実施)	計5館 (R1:3館実施)	計6館 (R2:1館実施)	達成
		屋上防水・屋根改修	3館 (H26)	12館 (R3末までの累計)	計4館 (H28:1館実施)	計6館 (H29:2館実施)	計9館 (H30:3館実施)	計11館 (R1:2館実施)	計12館 (R2:1館実施)	達成
		トイレ改修	1館 (H26)	14館 (R3末までの累計)	計0館(H28:実施設計)	計4館 (H29:4館実施)	計6館 (H30:2館実施)	計10館 (R1:4館実施)	計22館 (R2:12館実施)	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>冷暖房設備や屋上防水改修は、中長期保全計画に基づき進めています。</li> <li>トイレ改修は洋式大便器への改造に特化して改修を進め、洋式便器の設置率を早期に向上させるよう前倒して進めています。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>既設公共施設の長寿命化及び効率的な保全改修は全国的な課題となっています。計画的な維持保全を行うための個別施設計画の策定を進めています。</li> </ul>							

【施策1-2】 報告書(案)P72-75

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
6	中央図書館・生涯学習センター等の改修	中央図書館・生涯学習センターの改修	中央監視装置更新 (H26)	工事完了済	実施設計	実施設計	H30年3月 工事完了	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	達成
				工事完了済	実施設計	実施設計	H30年3月 工事完了	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	H30年3月 工事完了 (H29の実績再掲)	達成
				主な成果と考察					今後の取組み等		
・中央図書館・生涯学習センターのアトリウムガーデン屋根防水、吊天井落下防止対策は平成30年3月に完了しました。						・施設利用者への影響を考慮しながら、効率的な施設改修を検討します。					
7	コミュニティセンターの改修	外壁・屋上防水改修	工事2館 (H26)	実施設計1館	計工事0館 (H28:0館実施)	計工事0館 (H29:0館実施)	計工事1館 (H30:1館実施)	計工事1館 (R1:0館実施)	計工事1館 (R2:0館実施) 実施設計1館 (R2:1館実施)	達成	
		空調・熱源改修	実施設計1館 (H26) 工事1館 (H26)	実施設計1館 工事1館	計工事1館 (H28:1館実施)	計工事1館 (H29:0館実施)	計工事2館 (H30:1館実施)	計工事2館 (R1:0館実施)	計工事2館 (R2:0館実施) 実施設計1館 (R2:1館実施)	達成	
		劣化度調査	—	3館	計2館 (H28:2館実施)	計2館 (H29:0館実施)	計2館 (H30:0館実施)	計3館 (R1:1館実施)	計3館 (R2:0館実施)	達成	
		主な成果と考察					今後の取組み等				
・中期保全計画に基づき、計画的に施設改修を進めました。令和2年度は穴川コミュニティセンター大規模改修(外壁・屋上防水、空調・熱源改修)実施設計を実施しました。						・今後も、計画的に施設改修を実施します。					
9	公民館への社会教育主事配置	公民館における社会教育主事資格取得者数	—	12人	—	—	13人	15人	20人	達成	
		主な成果と考察					今後の取組み等				
・職員の専門性を向上することにより、社会教育活動を活発化するため、公民館職員の社会教育主事資格取得を進めたことにより、令和2年度中に3名が新たに資格取得しました。						・今後も社会教育主事講習に公民館職員を積極的に推薦し、資格取得者の増に努めます。					

【施策2-1】 報告書(案)P77-79

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				達成 状況	
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末			
1	加曾利貝塚の特別史跡指定	総括報告書の刊行	総括報告書の作成	総括報告書の刊行	総括報告書の刊行	総括報告書の刊行 (H28の実績再掲)	総括報告書の刊行 (H28の実績再掲)	総括報告書の刊行 (H28の実績再掲)	総括報告書の刊行 (H28の実績再掲)	達成		
			主な成果と考察					今後の取組み等				
			・平成29年10月13日付けで特別史跡に指定されました。						・加曾利貝塚の発掘調査や史跡整備を進めるとともに、新たな縄文体験の提供など来場者のニーズを踏まえた事業を積極的に実施します。			



【施策2-1】 報告書(案)P77-79

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	実績							達成 状況	
			当初 H27末	目標 R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末		
2	文化財の 保存・活用 の推進	ゆかりの家・いなげの改修	—	外壁等腐食箇所修繕、電気設備工事完了	—	—	—	電気設備工事実施設計	外壁等腐食箇所修繕	遅れ	
		市民ギャラリー・いなげ(旧神谷伝兵衛稲毛別荘)の改修	基本設計	耐震改修、屋根防水改修工事完了	実施設計	—	耐震改修、屋根防水改修工事	耐震改修、屋根防水改修工事完了	耐震改修、屋根防水改修工事完了	達成	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆかりの家・いなげは、外壁が腐食し内部の土壁が露出した部分を修繕しました。</li> <li>市民ギャラリー・いなげでは平成30年10月から耐震改修工事を2か年継続事業で実施していましたが、令和2年3月に再開しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆかりの家・いなげは、令和元年度に入札不調となった電気設備工事を実施します。</li> <li>市民ギャラリー・いなげでは、工事完了を踏まえ、安全のため同時に7人までとしていた入館制限を緩和し、公開事業を促進するとともに、イベント等の開催場所とするなど用途拡充を図り、活用していきます。</li> </ul>								
3	郷土の理 解を深め る講座・事 業の充実	加曾利貝塚など縄文時代の理解を深める講座・事業	11事業	13事業	13事業	15事業	34事業	36事業	26事業	達成	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>加曾利貝塚博物館では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春まつりやナイトミュージアム等、集客イベント等が中止となったものの、当初計画していた34事業のうち、23事業は感染症拡大防止策を講じながら、実施をすることができました。</li> <li>郷土博物館では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、教育普及事業の一部は中止しましたが、一部講座等については動画や冊子で公開するなど工夫し実施しました。また、特別展「軍部千葉と千葉空襲」など展示事業は予定どおり実施しました。また、市史編さん事業では、明治期の史料をまとめた『千葉市史資料編10近代1』を刊行しました。</li> <li>埋蔵文化財調査センターは、感染症対策として一部事業については実施回数を増やして1回あたり人数を減らすなどしながら、市内公共施設でのロービー巡回展など郷土史関連事業8事業に加え、加曾利貝塚博物館と連携した「加曾利貝塚現地説明会」など、縄文関連事業を実施しました。</li> <li>なお、上記3施設については、学校と博物館等との連携強化の一環として校外学習の事前学習や振り返りの学習等での活用を目的に映像コンテンツ「千葉市の不思議を学び隊！」を制作し、YouTubeで公開しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>加曾利貝塚博物館では、動物公園や県立中央博物館、学校等と連携し、相互交流を伴う事業を展開して参ります。ホームページに館長をはじめ、学芸員が担当するページがあり、貝塚や博物館の情報公開を行っています。Twitterアカウント等による迅速な情報発信に努めます。</li> <li>郷土博物館では、魅力ある事業を展開していく上で、その基礎となる調査研究を着実に進められるよう、研究体制の充実に引き続き努めて参ります。また、学校と連携したアウトリーチ活動の充実を図るとともに、ホームページやSNSを活用し、郷土史についての情報を積極的に発信します。市史編さん事業では市制100周年を記念して市民向けの分かりやすい『千葉市の歴史読本(仮称)』を刊行します。</li> <li>埋蔵文化財調査センターでは、加曾利貝塚をはじめとする発掘調査の成果を遺跡見学会や遺跡発表会で公表します。学校教育や他施設との連携を図り、埋蔵文化財の活用を積極的に展開するとともに、市制100周年を記念して、市内から出土した各時代の優品展を実施します。また、さらなる情報発信のため、SNSやホームページの充実に努めます。</li> </ul>						
5	特別史跡 加曾利貝 塚の魅力 向上	加曾利貝塚博物館の来館者数	—	100,000人	—	—	77,222人	67,632人	33,500人	遅れ	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は新型コロナ感染症拡大の影響により33,500人となり、令和元年度の67,632人と比べ減少しました。小学校をはじめとした団体見学の中止・受入制限、縄文春まつり、秋まつり、ナイトミュージアム等の大規模イベントの中止、緊急事態宣言期間中の「縄文体験プログラム」の中止などが減少の主な要因です。</li> <li>一方で、春のミニイベントなど、コロナ禍での新たな小規模イベントを企画・実施しました。</li> <li>平成31年2月に策定した「特別史跡加曾利貝塚ランドデザイン」に基づき、北貝塚住居跡群観覧施設の建築改修工事や園路・サインの改修工事などを行いました。</li> <li>新博物館の基本計画策定に向け、展示体験計画の追加検討を行い、中間取りまとめ案を作成しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな来訪者を獲得できるイベントや縄文体験プログラムを企画・実施します。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、新たな生活様式に配慮した博物館運営に努めます。</li> <li>便益施設の新築工事や復元住居の新設等の史跡整備を行います。</li> <li>新博物館の整備・運営手法の検討調査を行うとともに、縄文の森ゾーン・水辺ゾーンでの集客事業等の事業化検討調査を行い、その成果を踏まえ、新博物館の基本計画を策定します。</li> </ul>						

【施策2-2】 報告書(案)P82-86

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初	目標	実績						
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況	
4	「(仮称)瑞穂情報図書センター」の整備	「(仮称)瑞穂情報図書センター」の整備	検討	供用	H29年3月 28日供用開始	供用	供用	供用	供用	供用	達成
		主な成果と考察			今後の取組み等						
<p>・「(仮称)瑞穂情報図書センター(現:みずほハスの花図書館)」は、寛ぎながら読書を楽しめるスペースの設置に加え、自動貸出機、タブレット端末及びデジタルサイネージ等のICT機器を活用したサービスの導入など、新たな取組を行う図書館として、花見川区役所1階に整備を進め、平成29年3月に供用を開始しました。なお、みずほハスの花図書館の効果検証結果については、第3次実施計画事業「新たな図書館計画(現:千葉市図書館ビジョン2040)の策定」の基礎資料として活用しました。</p>			<p>・開館後の利用統計を通じ、新たな図書館のモデル事例として検証を継続し、今後の施設整備を進める際のデータとして活用します。</p>								
6	未来の科学者育成プログラムの充実	未来の科学者育成プログラムの実施(ジュニア講座受講者数)	実施	拡充 (100人)	拡充	実施 (受講者数減)	71人	159人	25人	遅れ	
		ロボット工学講座の実施(中高生対象講座)	—	4講座	—	—	2講座	3講座	2講座	遅れ	
主な成果と考察			今後の取組み等								
<p>・ジュニア講座は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2講座の実施で延べ25人の参加となりましたが、電子申請によるスムーズな申込体制の確立や、一部の講座をオンラインで実施するなど、新たな取組みを行いました。</p> <p>・ロボット工学講座は、千葉大学・千葉工業大学の協力により4講座予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2講座の実施で延べ49人の参加となりました。</p>			<p>・ジュニア講座では、5・6年生対象の講座に加え、小学3・4年生対象の講座を増設します。また、電子申請システムによる受付を推進します。</p> <p>・ロボット工学講座は、令和3年度は4講座を実施する予定です。</p>								
8	放課後子ども教室の推進	実施日数	21.2日/校 (H26)	従来型 22.0日/校 活動支援型 28.0日/校	19.8日/校	19.8日/校	従来型 17.9日/校 活動支援型 25.9日/校	従来型 16.9日/校 活動支援型 28.0日/校	従来型 4.2日/校 活動支援型 14.1日/校	遅れ	
		活動支援実施校数	—	17校	—	—	17校	17校	17校	達成	
放課後子どもプラン策定			—	策定	—	—	策定	策定 (H30の実績再掲)	策定 (H30の実績再掲)	達成	
主な成果と考察			今後の取組み等								
<p>・平成30年度に放課後子どもプランを策定し、放課後施策を総合的・計画的に進めています。</p> <p>・放課後子ども教室は、新型コロナウイルス感染症拡大により活動が縮小されたため、実施日数が減少しました。また、安全管理やプログラム開発など、地域の負担が大きいことが実施日数を増加する上での課題となっています。</p> <p>・活動支援型は対象校17校を希望制により決定することで、真に必要なとされる支援を行いました。</p>			<p>・令和3年度に放課後子どもプランの中間見直しを実施し、今後の放課後対策について示します。</p> <p>・放課後子ども教室は、総合コーディネーターによる活動支援を継続するとともに、引き続き対象校は希望制により決定することで、真に必要なとされる学校に必要な支援を行い、実施日数の増加を図ります。</p>								

【施策2-2】 報告書(案)P82-86

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	実績							達成 状況
			当初 H27末	目標 R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	
9	子ども読 書活動の 推進	読書週間のある児 童生徒の割合 (小学5年生)	45.2% (H26)	52.5%	46.0%	48.1%	44.0%	44.1%	46.0%	遅れ
		読書週間のある児 童生徒の割合 (中学2年生)	46.9% (H26)	52.5%	44.4%	44.5%	43.0%	—	44.2%	遅れ
		1か月に読んだ 本が0冊の児童生 徒の割合(小学 生)	1.1% (H26)	0.8%	0.6%	0.4%	0.3%	0.6%	0.3%	達成
		1か月に読んだ 本が0冊の児童生 徒の割合(中学 生)	7.9% (H26)	5.5%	2.8%	1.6%	1.3%	0.9%	2.6%	達成
主な成果と考察			今後の取組み等							
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ファミリーブックタイム事例集」や「どくしょてちょう」の配布、子ども読書まつり実施などにより、子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように支援し、読書環境の整備に向けた取組みを行いました。</li> <li>読書習慣のある児童生徒の割合は、年齢(学年)が上がるにつれて読書をしなくなる傾向が見られ、これは勉強やスマートフォンの普及・インターネット利用の増加による影響により、家庭での読書の時間を十分に確保できていない可能性が考えられます。</li> <li>1か月に読んだ本が0冊の児童生徒の割合は減少しています。一斉読書や朝読書など、学校での取組みの成果が表れています。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの読書活動の推進を図るため、「団体貸出」や「セット貸出」により図書資料の有効活用を図るとともに、「図書館見学」、「おはなし会」、「調べ学習」など体験を通した学びを支援していきます。</li> <li>また、令和3年3月に策定した第4次子ども読書活動推進計画に基づき、図書館システムを通した学校との連携について検討していきます。</li> </ul>							
11	家庭教育 支援事業 の実施	「子育てママのお しゃべりタイム」の 実施館数	21館 (H26)	28館	22館	22館	22館	22館	21館	遅れ
		「子育てママのお しゃべりタイム」の 延べ参加者数	—	2,500人	—	—	1,925人	1,677人	1,051人	遅れ
主な成果と考察			今後の取組み等							
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育の支援や子育ての不安や悩みを解消するため、「子育てママのおしゃべりタイム」を公民館で実施しました。当該事業の担い手である子育てサポーターや地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整しています。少子化や就労家庭の増加により参加者数は減少しており、実施館数の増加には至っていません。</li> <li>令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により活動が縮小され、実施回数・参加者数は減少しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、人材の確保などの実施体制を強化しながら、地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整していきます。また、子育てサポーター間で情報交換をし、よい取組みを共有します。</li> </ul>							
13	公民館主 催講座の 実施・拡充	主催講座の実施・拡 充	—	900講座	—	—	972講座	1,085講座	618講座	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い学習ニーズに応えるため、関係機関と連携・協力をし、様々な講座を実施しました。当初は1,224講座を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館や利用制限の影響により、令和2年度の講座数は大幅に減少しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も利用者ニーズを把握し、オンラインを活用した開催方法も検討しながら、学習機会の提供に努めていきます。</li> </ul>							

【施策3-1】 報告書(案)P88-89

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
1	団体・グループ活動のリーダーの養成・育成	指導者養成研修 * 延受講者数	333人 (H28)	400人	389人	364人	347人	318人	364人	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
2	ボランティアの育成	ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数	1,634人 (H26)	2,000人	1,635人	1,697人	1,743人	1,834人	1,802人	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					
3	家庭教育支援事業の実施(一部再掲)	家庭教育支援チーム数	2チーム (H26)	4チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	3チーム	遅れ
		子育てサポーター人数	33人 (H26)	42人	36人	39人	35人	37人	37人	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					

【施策3-2】 報告書(案)P91-93

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績			
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況
4	ボランティアセンター等におけるコーディネートの実施	ちば生涯学習ボランティアセンターにおけるコーディネート	198件 (H26)	260件	231件	221件	234件	282件	123件	遅れ
		主な成果と考察			今後の取組み等					

【施策3-3】 報告書(案)P95-96

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	当初		目標		実績				
			H27末	R3末 (最終目標)	H28末	H29末	H30末	R1末	R2末	達成 状況	
1	多様な主体による学習活動の推進	公民館、生涯学習センターにおいて多様な主体と連携して実施した事業数	103事業 (H26)	120事業	114事業	109事業	131事業	141事業	90事業	遅れ	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響により前年度を大幅に下回ったものの、NPO法人や地域団体などと連携し、生涯学習センターでは54講座、公民館では36講座を実施しました。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人をはじめ、大学、民間企業、地域団体、生涯学習施設で活動している団体等と連携し、地域課題の把握に努め、学習内容と機会の充実に努めます。</li> </ul>						
6	特別教室等の開放	継続しつつ、類似事業への移行を進める	継続	継続しつつ、類似事業への移行	継続	継続	継続	継続	継続	遅れ	
		主な成果と考察			今後の取組み等						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度実施されませんでした。</li> <li>学校施設開放事業は謝礼金等による予算の制約がないことから、学校施設の更なる活用が期待できますが、安全管理員の配置がないことや光熱水費の実費徴収等、利用者のデメリットもあるため移行には至りませんでした。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設開放事業に移行します。令和4年4月 瑞穂小学校移行予定</li> </ul>						

令和3年教育委員会会議第8回定例会出席者(第一・第二会議室)

